

With

帯広協会病院 地域医療連携ニュース

5 診療を終わった方

院長ごあいさつ 診療科紹介

総合診療科／消化器内科／循環器内科／小児科／
整形外科／外科／産婦人科／腫瘍内科／泌尿器科／
耳鼻咽喉科／眼科／麻酔科／病理診断科
共同利用のご案内（臨床検査科／画像診断科）
紹介窓口（地域医療福祉連携室）

増刊号
2023.10

帯広協会病院の理念

十勝・帯広に必要な医療機関であり続ける



令和元（2019）年末に中国から全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は肺炎が重症化しやすいこと、季節性インフルエンザ感染と比較して感染力が非常に強いことにより、2類相当感染症として医療面では特別な対応が必要となりました。当初はワクチンも治療薬も無かったため入院隔離が主たる対策となり、通常診療や救急医療には大きな支障が生じました。そんな新型コロナウイルス感染症もウイルス変異により重症化率が低下したことで令和5（2023）年5月から5類感染症に移行しました。ただしその感染力は非常に強力なままであり、日常診療において新型コロナウイルス感染症への対策は今後も重要なポイントです。

当院においては一般病棟を改装して陰圧空調システムを備えた新型コロナ感染症病棟を運営してきました。ただ最近では新型コロナ感染症の症状が主ではなく、外傷や腹部手術等の処置が必要な方がコロナ感染しているといった日常診療でのコロナ陽性者が増えています。そのため一般病棟での陰圧病床の整備や医療スタッフが感染対策に習熟することで通常の診療体制の中でコロナ感染者を扱うことを心がけてきました。さらに3年以上の新型コロナ感染症への経験の中で、当院が十勝医療圏で求められているのは二次救急体制含めて急性期医療への対応であると考え、令和5（2023）年10月からは新型コロナ感染症病棟は一般病棟に転換します。

コロナ禍以前と比べて、当院の診療体制にも変化が生じています。救急処置室を拡大して日中の救急患者は総合診療科で幅広く受け入れる体制となり、腫瘍内科では訪問診療を含めた抗癌剤治療や緩和医療を進めています。300床の急性期病床を地域のニーズに応えるべく有効に活用していただくために、当院での診療内容の紹介を企画しました。この冊子が皆様の普段の診療のお役に立てれば幸いです。

令和5（2023）年10月

院長 吉田 一郎

総合診療科

部長 堀 哲也



総合診療科は、平成28（2016）年4月に帯広協会病院に新設され、今年で8年目になります。外来、入院、救急などで年齢、性別、疾患を問わず幅広く対応しています。平成30（2018）年度からは、日本専門医機構が認定する基本領域の診療科のひとつとして、総合診療科が新たに加わりました。当院も専門医研修施設の認定を受けて、研修教育を行っています（日本プライマリ・ケア連合学会、日本病院総合診療医学会の施設認定も受けております）。

現在は、指導医3名に加えて、専門医研修中の医師（専攻医）8名の合計11名と非常勤医師1名が在籍しております。研修ローテーションの関係で、実質的には6～8名体制で診療を行っています。入院診療の内訳としましては、高齢者の一般内科疾患が多くを占めますが、診断が確定していない脱水症、食欲不振、体動困難などの症例についても積極的に入院で対応します。また、不明熱、体重減少、浮腫の精査目的の入院にも対応しています。その他、敗血症などの重症感染症、高血糖緊急症、複数疾患の合併症例、悪性腫瘍の疼痛緩和ケア治療などにも対応しています。また、1泊入院による睡眠時無呼吸症候群の終夜睡眠ポリグラフィー（PSG）検査も行っています。入院が必要な場合には、いつでもお気軽にご紹介ください。

令和5（2023）年3月には、救急処置室の改築工事（リフォーム）を行い、今まで以上に救急患者の受け入れが可能な状態となりました。日中の救急外来の対応につきましては、主に総合診療科の担当医が対応しておりますので、救急症例につきましてもご相談ください。

総合診療科

医師のご紹介



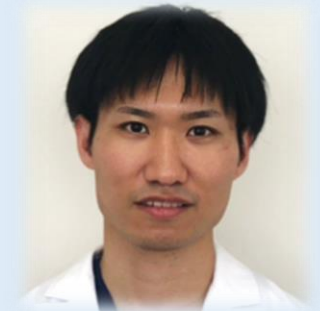
主任医長 堀 みき



医師 田尻 巧



医師 長谷川 優



医師 國光 克知



TOPICS | 救急処置室リニューアル

救急科 師長 山口 美由紀

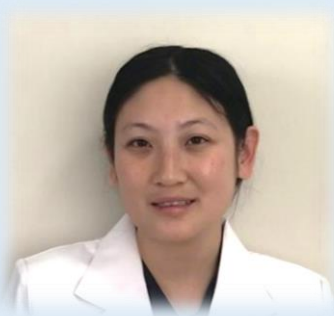
日頃より地域の医療機関の皆さまには、大変、お世話になっております。

当院の救急科にございます中央処置室では、救急受入、処置、内視鏡の業務を行っており、正職看護師16名、嘱託パート6名、看護助手1名の計23名が所属しています。救急では、日中は総合診療科の医師が救急の受け入れを行い、休日・夜間は帯広市の二次救急輪番制病院のうちの一つとなっております。

救急搬送の依頼件数は増加傾向で、昨年（令和4（2022）年）度は年間で2,200件を超える受け入れがありました。

救急患者さんの受け入れがよりスムーズにできるように、救急科と中央処置室の増改築を行い令和5（2023）年の3月24日より稼働を開始しています。増改築によって面積も約2倍の広さとなり、一度に受け入れられる救急患者さんの数も最大5名まで可能となりました。室内も衛生的な抗菌消臭の壁材になり、物品を整理して収納するスペースも確保され、可動式のパーティションにより患者さんのプライバシーにも配慮した環境になっております。

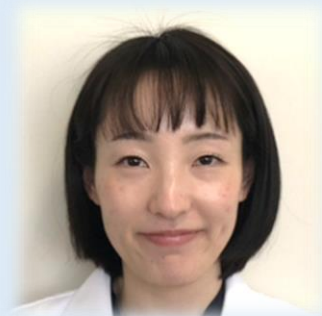
これからも、さらに救急患者さんを積極的に受け入れながら、地域に必要とされる病院を目指して日々頑張っております。



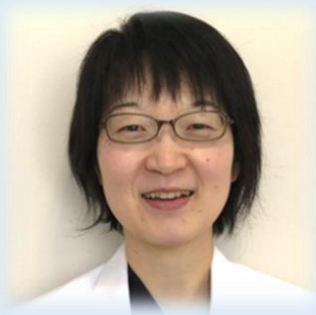
医師 古賀 千夏



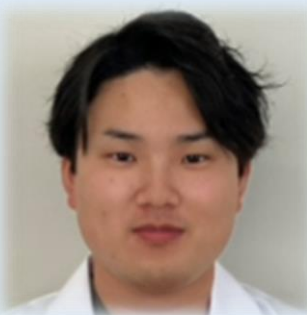
医師 竹田 瑛



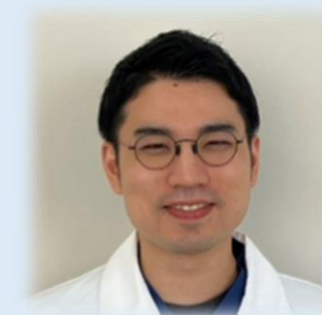
医師 池田 安佳莉



医師 磯野 真子



医師 瀧川 雄輝



医師 前田 和俊

消化器内科

主任部長 佐藤 修司



地域中核病院の消化器内科として、4名の常勤医師で診療を行っております。

当科では、消化器疾患全般（上下部消化管疾患、肝胆膵疾患）の診断と治療を行い、検診や診断目的の内視鏡検査、内視鏡的腫瘍切除術・ステント留置・総胆管結石採石術などの内視鏡治療、消化管止血術・ドレナージ術・異物除去などの緊急処置、消化器癌に対するがん薬物療法を中心にしております。手術が必要な患者さんには外科との定期的カンファレンスで手術方法などを検討し、その都度、最適な治療法を選択しております。

近年、わが国における炎症性腸疾患（IBD）の患者数は増加傾向ですが、IBD医療に精通した専門医が地方に少ないことが課題となっております。当院は、札幌医科大学消化器内科学講座のIBD遠隔医療連携診療を導入しております。遠隔医療連携診療システムは、IBD診療の均てん化を目的とし、ビデオ通話で札幌医科大学消化器内科講座と当院を接続し、大学のIBD専門医と、当院のIBD患者さんに主治医が同席する形で診療を行っております。

また、日本消化病学会および日本消化器内視鏡学会の認定指導医、日本肝臓学会肝臓専門医が在籍しており、日本消化器内視鏡学会の指導連携施設に認定される予定となっております。

TOPICS | 内視鏡室リニューアル

救急科 看護副師長 柴田 トシコ

内視鏡室は、令和4（2022）年5月に2階へと移転改装しました。

内視鏡受付・内視鏡検査室1・内視鏡検査室2・上部内視鏡前処置室・下部内視鏡前処置室・リカバリー室・洗浄室で構成されています。

内視鏡検査室を2室に増設し、部屋の広さも拡張したことで、健診の患者さんと外来患者さんの上部内視鏡検査を並列して検査することが可能となり、お待たせすることなく、より多くの検査ができるようになりました。また、消化器内視鏡検査のほかに、気管支鏡検査も行っています。

下部内視鏡検査では、腸管洗浄剤を飲むための前処置室を広くし、トイレはオストメイトトイレと合わせて4箇所を近くに設けることで、患者さんにより快適に安心して過ごしていただけるようになりました。

鎮静下の内視鏡検査後は新設したりカバリー室で休んでいただきます。洗浄室では、内視鏡機器の洗浄消毒の質を保证するために、洗浄履歴をデジタル管理しております。

これからも、内視鏡室では検査を受けていただく患者さんの不安が軽減できるように努めてまいります。



増設した内視鏡検査室2

循環器内科

主任部長 及川 達也



日頃より大変お世話になっております。循環器内科の及川と申します。私は平成26（2014）年4月より北海道大学循環病態内科学教室関連施設として当院に勤務することになりまもなく10年となります。以前の当院第2内科は心臓疾患に加え腎臓疾患の診療も担っておりましたが、北海道大学循環病態内科学教室は腎臓疾患の診療に関わっていないため、当初は近隣の医療機関に対する周知も不十分であったことから、ご紹介いただく際に大変ご迷惑をおかけいたしました。

そのような状況から年月も経ち、令和4（2022）年4月より当科の吉田一郎が病院長に就任するなど、およそ10年前とは異なる環境になっております。もともとは現病院長吉田と私の2人体制から始まったものの、現在は医師4人（吉田、及川、西川、牧野）となり、カテーテル検査・治療を中心に急性心筋梗塞・急性心不全などの急性疾患から、慢性心不全患者などの慢性疾患、外来も含めた心臓リハビリテーションまで幅広く対応できるようになりました。ICUがないので重症心疾患への対応がやや限定的となっておりますが、当院の総合診療科のおかげもあり、我々循環器内科が比較的循環器疾患に専念できる環境も整っており、日頃より丁寧で迅速かつ各患者さんの病態に応じた治療の提供を心掛けております。

近隣の先生方からのご要望にも以前より対応できるかと思っておりますので、ご遠慮なくご紹介いただければと思います。今後とも、循環器内科を何卒よろしく願っています。

TOPICS | 心臓リハビリテーション外来申込方法

- 心臓リハビリテーション外来の申込手順は3つです。
- ① **【対象の確認】** 心臓リハビリの対象者であることをご確認ください。
 - 急性心筋梗塞後
 - 狭心症
 - 大血管疾患(大動脈解離・大血管術後)
 - 慢性心不全
(BNP 80pg/mL以上、またはNT-proBNP 400pg/mL以上、またはLVEF 40%未満)
 - 末梢動脈閉塞性疾患(間欠性跛行がある場合のみ)注意：以上のどれかに該当しない場合は心臓リハビリは実施できません。
 - ② **【必要書類】** 以下2点をFAXにて地域医療福祉連携係にご送信ください。郵送でも構いません。
 1. FAX申込書
(ホームページからダウンロードいただけます)
<https://www.obihiro-kyokai-hsp.jp/shinryouka/ka/heart-rehabilitation/>
 2. 現病歴、検査結果、投薬情報が記載された書類
※書式は問いません。
 - ③ **【受診予約確認表】**
当院より受診予約確認表をFAXにて返送いたしますので患者さんにお渡しいただき、予約日に当院の7番窓口「紹介状を持参された方へ」にお越しください。外来新患枠での受診となります。紹介された患者さんが来院されましたら受診報告書をFAXいたします。
受診当日は医師の診察後、リハビリテーション室にて担当より説明があり、次回の予約を取って終わりとなります。リハビリや検査の料金については当院ホームページまたはパンフレットに記載されておりますのでご覧ください。
直通FAX：0155-22-6620
(受付時間 平日8:30～16:30 第1/3土曜日8:30～11:30)

小児科／えぞりす診察室

副院長 青柳 勇人

ご存じの方も多いかと思いますが、新型コロナ流行後の令和3（2020）年12月より、病院敷地内にプレハブ診察室（通称 えぞりす診察室）設置し、発熱や感冒症状のあるお子さんの診察をしています。

子どもの受診理由の大半は急性感染症ですので、プレハブで診察する割合が多いです。

患者さんには病院ホームページから診察エントリーフォームを送信してもらい、受診場所（院内かプレハブか）、受診時間（滞在時間を短くするため）、事前検査の有無などを調整しています。大変面倒で手間のかかる作業ですが、今しばらくは継続しなくてはならないかと考えております。

ご紹介の折には、当院小児科医師までお電話いただき、その後、看護師が保護者の方と受診場所や時間を調整いたします。保護者の方の電話番号などを先生方にお聞きする手間をかけますが、ご了承ください。



整形外科

主任部長 興村 慎一郎



整形外科は常勤医師4名体制で診療を行っております。当院は札幌医科大学を基幹施設とした整形外科専門医教育施設で、難治症例は同大学整形外科と連携して治療を行っています。また、非常勤医師による専門外来（脊椎、肩関節、股関節、手・肘関節、スポーツ）では、各部位ごとに専門的な診断や治療を行っています。

スポーツ医学センターは2015年に開設されてから8年が経過しました。小学生から大人、スポーツ愛好家からトップアスリートまで、年齢や競技特性、競技レベルに応じた治療を提供しております。正確な診断と治療はもちろんのこと、痛みが改善した後の再発予防まで考えた治療を行っております。

お困りの患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご相談、ご紹介いただけますと幸いです。



TOPICS | スポーツ医学リハビリテーションセンター

理学療法係長 吉川 祐樹

当院のスポーツ医学リハビリテーションセンターは、幼少期から高齢期までのスポーツ愛好家、スポーツ選手を対象に札幌医科大学の整形外科、保健医療学部理学療法学科と連携しながら、成長期障害や炎症疾患、肉離れ、投球肩・肘障害、靭帯損傷や再建術後、骨折術後などのスポーツ障害に対し、スポーツ復帰に向けてスポーツリハビリテーションを提供しています。整形外科的診断と理学療法評価を踏まえながら、患部に対するストレスの改善

と再発予防を目標として関わっています。

その他、管内高校のスケート部、バスケットボール部のメディカル・フィジカルチェックの実施や管内高校のバスケットボール部への帯同、アーチェリー、サッカーなどスタッフの競技経験があるスポーツの医療的サポートやトレーナー活動も行っています。

スポーツで怪我をされた方、慢性的なスポーツ障害でお困りの方がいらっしゃいましたらお気軽にご相談、ご紹介いただけますと幸いです。

外科

部長 本間 友樹



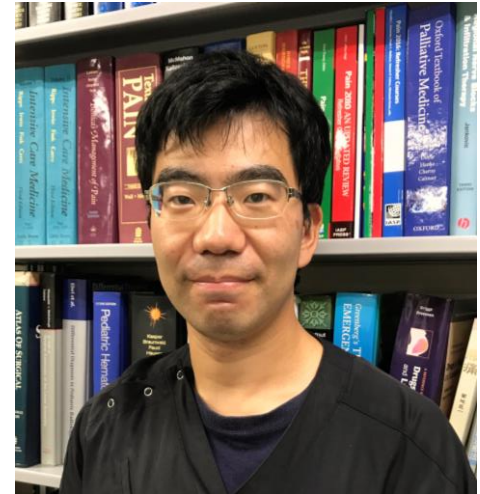
外科では、現在、常勤医師5名と非常勤医師2名による7名体勢での診療を行っております。

ここ数年間は、コロナ禍によって、がん患者さんの手術を優先することが多かったため、鼠径部ヘルニアや胆石症などの良性疾患の患者さんには、長期間の手術待機をお願いすることもございました。しかし、現在は良性疾患の手術も精力的に行っており、コロナ禍以前と同じ程度の待機時間で手術をお受けいただけるようになりました。さらに消化器手術に関しては、可能な限り腹腔鏡での手術を行うことにより、患者さんへの負担を軽減すべく対応させていただいております。

また、当科では消化器疾患だけではなく、非常勤の上徳ひろみ医師を中心として、乳がん治療も積極的に行っておりますので、今後ともご相談、ご紹介をいただけますと幸いです。なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

産婦人科

主任医長 鹿内 智史



皆様におかれましては益々御健勝のことと存じ上げます。産婦人科の鹿内智史と申します。当科は常勤医師5名、非常勤医師1名の計6名で、十勝管内における正常分娩から異常分娩、婦人科疾患や緊急疾患など多岐に渡り診療を行っております。当科ではアットホームな空間の提供とより安全な分娩を目指しており、十勝の妊婦さんのニーズに合わせた産科診療を心掛けております。手術件数も年間約300件行っており、婦人科では良性疾患から悪性疾患まで幅広く手術を行っております。

十勝の医療に少しでも貢献できるよう精進してまいります。産科婦人科関連でお困りの事例がございましたら、お気軽にご相談ください。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

腫瘍内科

主任部長 杉山 絢子



わたしは、20年以上北海道内外でがん治療に関わってきた「がん薬物療法専門医・指導医」として、令和2（2020）年に当院に赴任し、腫瘍内科を開設しました。

乳癌、消化器・肺・泌尿器・婦人科がんなどの固形がんを中心とした悪性腫瘍の化学療法（抗がん剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤など）を入院・外来で行っています。悪性胸膜・腹膜中皮種や各種肉腫、皮膚癌・頭頸部がんなど、稀な悪性腫瘍の化学療法もしており、他院での診断・手術後にご紹介いただくことも増えてきています。

腫瘍内科では、「その人らしい生活と両立したがん治療」を目指し、術前・術後の化学療法や、転移・再発の化学療法も、患者さんの仕事や生活、趣味が続けられるような治療方法や支持療法や緩和ケアを工夫しています。院内の多職種で構成されるがんサポートチームのメンバーも積極的にに関わり、身体的苦痛だけでなく、心理・社会的苦痛のサポートを行っていることも特徴の一つです。

また、がん患者さんの訪問診療も、地域の訪問看護ステーションや訪問薬剤師と協力して腫瘍内科で担当しています。最期まで主治医が変わらずに診てほしい、できるだけ自宅での時間を過ごしたいという患者さんやご家族に「よかった」という声をいただいています。がんの化学療法や緩和ケアを学びたい若手医師や医療福祉関係者の指導にも関わっています。がん治療や緩和ケアが必要な場合にはお気軽にお声がけください。

TOPICS | がんサポートチーム

緩和ケア認定看護師 松本 めぐみ

当院には、がんと診断された患者さん・ご家族がその人らしく生きるお手伝いをさせていただく「がんサポートチーム」、「がんサポート外来」という部門があります。

「がんサポートチーム」では医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が連携し、化学療法・手術などがん治療に伴う副作用への対応やこころのケア、仕事との両立、脱毛などの外見の変化への対応、これからの過ごし方など、がんに伴う様々な困りごとに対し、患者さん・ご家族や院内の医療職と一緒に考え、サポートをさせていただきます。

当院で治療を受けていない患者さんも医師、看護師でサポートしている「がんサポート外来」を受診することができます。ご家族だけの受診も可能です

ので、ぜひ、ご相談ください。

ご相談は当院の『がん相談支援センター』になります。どうぞ、お気軽にお声がけください。



泌尿器科

副院長 岡田 学

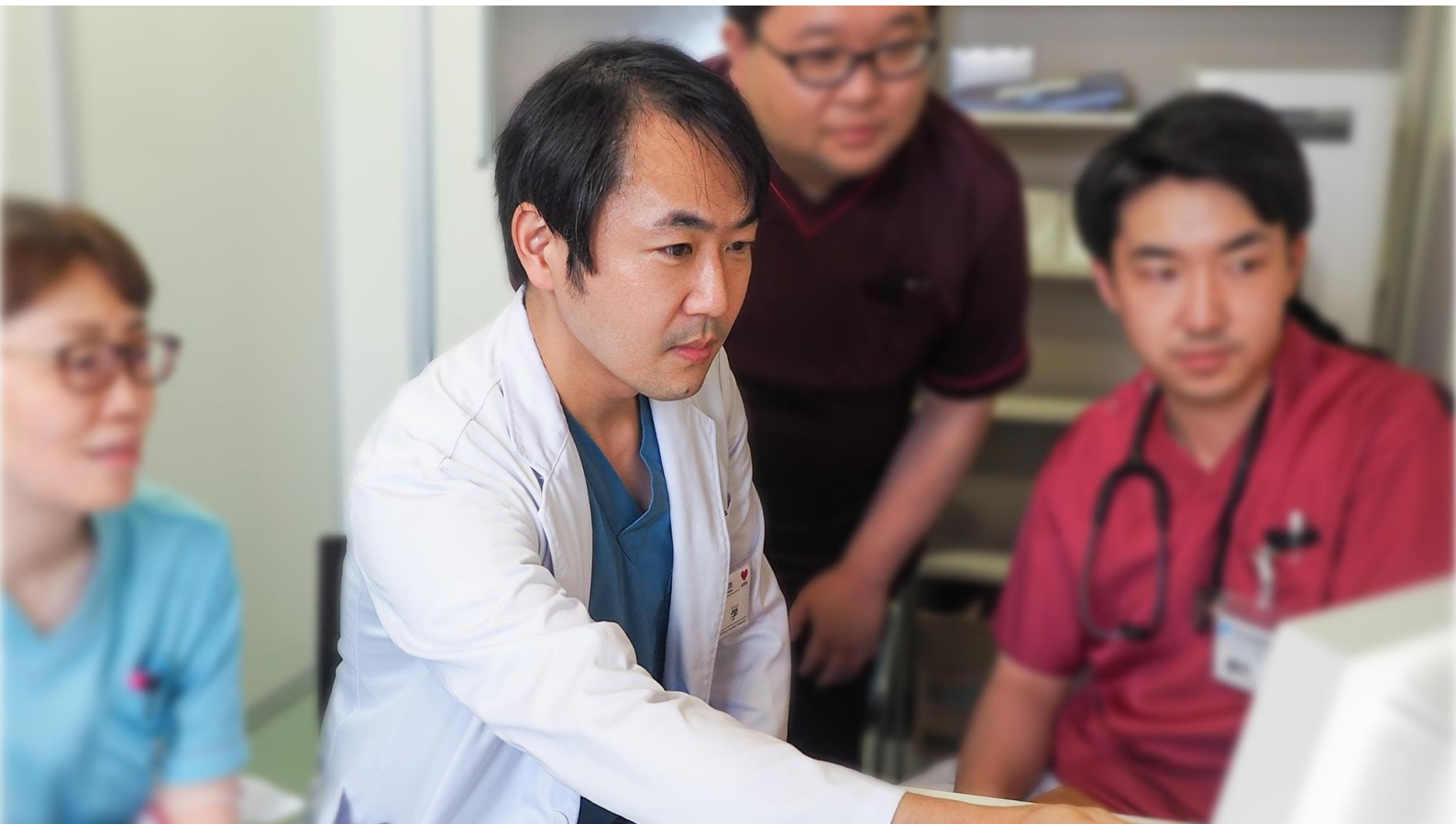
当科では患者さんに低侵襲でよりよい治療を提供するために、新規の治療法に積極的に取り組んでおります。

令和2（2020）年からは経尿道的尿路結石碎石術に加え細径腎盂鏡を用いて経皮的にもアプローチするECIRSを開始し、大きな腎結石への治療が低侵襲で可能になりました。

また、令和4（2022）年8月からは前立腺肥大症に対する光選択的前立腺レーザー蒸散術を開始しました。出血が少なくこれまでの手術法では治療できなかった大きな前立腺や抗凝固薬継続下でも手術が可能になりました。

今後も光線力学診断補助下経尿道的膀胱腫瘍切除術の導入を予定しており、患者さんによりよい治療をお届けできるよう努力してまいります。

令和2（2020）年からは毎月、札幌医科大学泌尿器科准教授の田中俊明医師が腎移植外来を行っております。腎移植についての相談や同科での腎移植後のフォローアップを行っておりますので希望される患者さんがいらっしゃいましたらお気軽にお問い合わせください。



耳鼻咽喉科

医長 大和田 築



耳鼻咽喉科では補聴器外来や教授外来を現在行っております。

耳は日常生活において非常に重要な機能を有しており、聴力低下は生活に大きな支障をきたす場合がございます。また、近年では難聴と認知症の関連が指摘されており、難聴を放置しておくことで認知症が進行してしまう恐れがあります。一方で、日本人は補聴器をためられる方が多く、他国と比較して補聴器装用率が低いのが現状です。補聴器外来では補聴器に関する疑問や相談ができますので、お気軽に当科にご相談ください。

また、不定期ではありますが、札幌医科大学 高野 賢一 教授による教授外来も行っております。特に耳疾患のことをご相談されたい方がいらっしゃれば、当院までご相談いただけますと幸いです。教授外来については、当院のホームページに詳しい日程を掲載しておりますのでご参照ください。

当科へのたくさんのご来院をお待ち申し上げます。

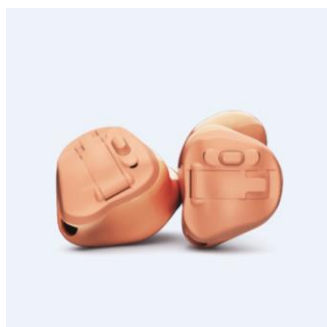
TOPICS | 補聴器外来

当院の耳鼻咽喉科では補聴器外来を実施中です。

耳は日常生活を送る上でとても重要であり、聴力の低下により生活に支障をきたす場合があります。また、近年、難聴と認知症発症との間には統計学的に関連のあることが、さまざまな研究結果から証明されており、認知症予防に補聴器を用いた研究データも蓄積されております。

補聴器は医療器具でアフターケアが重要なため、耳鼻咽喉科医師が管理できる環境で作製・購入されることをお勧めいたします。総合支援法等による助成金制度のご相談も承ります。

ご自身やご家族のために補聴器を試されてみてはいかがでしょうか。



耳鼻咽喉科 補聴器外来 <受診方法>

1、まずは耳鼻咽喉科外来を受診（予約不可）

月・火・木・金・土曜日の8:30-11:00（月曜日のみ13:00-15:00も可。水曜日は終日不可）

耳の診査、聴力検査を行い、補聴器の適応・希望があれば補聴器外来の予約を取ります。

2、補聴器外来（完全予約制）毎月第2・4水曜日

語音明瞭検査（聞き取りの検査）、補聴器のフィッティング、2~3週間程度の補聴器の貸し出しを行います。※補聴器の貸し出しは無料
検査は健康保険適応。お電話による補聴器外来の予約は受けかねますのでご了承ください。

担当医師 大和田 築（日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医、日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医）

眼科

主任部長 田邊 章浩



当院には日頃よりひとかたならぬお引き立てを賜り、十勝地区の先生方には厚く御礼申し上げます。
当科は現在眼科専門医2名を含む常勤医4名体制で、十勝地域の眼科基幹施設として「可能な限り地元で完結できる眼科医療」を目指し、白内障・緑内障を軸にさまざまな眼科疾患の診療を行っております。特に以下の疾患に力を入れております。

1. 白内障難症例

主任部長の田邊は白内障難症例を専門としており、開業医の先生方が手術をためられるような困難な症例も積極的に受け入れております。

2. 緑内障手術治療

道東トップクラスの手術実績があり、緑内障専門医による診療体制も整っております。

このほか、翼状片などの外眼部手術・網膜前膜や黄斑円孔に対する網膜硝子体手術なども行っております。

眼科疾患でお困りのことがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしく願いいたします。

TOPICS | 健診センター

看護副師長 荒木 あゆみ
健診センター係主任 山本 孝宏

健診センターでは、皆さまが安心して検査を受け、ご自身の健康管理につなげていただけるよう取り組んでおります。

健診内容には、人間ドック、脳ドック、協会けんぽ（全国健康保険協会）生活習慣病予防健診、特定健診、企業健診などがございます。また、乳がん検診、子宮がん検診を他の健診と合わせて同日で対応することも可能です。ご希望に合わせ追加できるオプション検査も充実しており、最近では3Dマンモグラフィや肺がんCT検査と、より精度の高い検査を追加しております（すべて完全予約制）。

人間ドックをご利用の方には、ゆったりとした時間を過ごしていただけるように専用のお部屋をご用意しており、検査の結果説明から、医師の診察、保健指導までをその日のうちに終了してお帰りいただけます。

長年にわたり十勝に根づいた信頼と実績をもとに、ご利用いただくすべての皆さまの安心と安全に配慮した丁寧でこまやかな対応を心がけております。健診のことならどんなことでもお気軽に健診センターまでご相談ください。



リニューアルした人間ドック待合室

麻酔科

主任部長 佐藤 紀



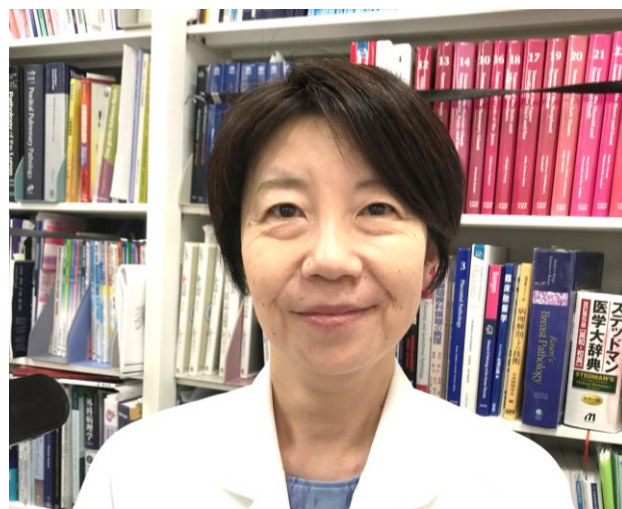
当院の麻酔科には3名の麻酔科医が常勤しております。3名とも日本専門医機構麻酔科専門医・日本麻酔科学会麻酔指導医を取得しております。コロナで一時期、定期手術が減少した年もありましたが、おおむね1,700件の麻酔科管理手術症例を行っております。

通常麻酔科業務以外にも外来ではペインクリニックにも対応しております。近年、東洋医学を援用することでペインクリニック取り扱い疾患の幅を広げております。痛みに限らず、しびれ・冷え・むくみにも対応しております。

病悩期間が長く、西洋薬で改善が見られない患者さまのご紹介をお待ちしております。

病理診断科

部長 三浦 千砂子



病理診断科は常勤医2名（いずれも日本病理学会病理専門医研修指導医）が所属し、年間およそ2,200例の組織病理診断、10,000件の細胞診断、病理解剖を実施しています。全症例に対しダブルチェックを行い診断の精度を高め、さらに通常の光学顕微鏡に加え内視鏡像に近い実体顕微鏡での観察を行い、臨床所見との相関を検討しています。希少な症例は外部コンサルテーションシステム（日本病理学会、国立がん研究センター等）を利用し診断レベルの向上に努めています。

病理診断は治療方針の決定や変更に関わる業務であり、当科では日常的に各科臨床医と意見を交わし、より正確で迅速な診断を目指しています。院内の症例によらず他施設で作製された標本についてもコンサルテーションや追加検査が可能な場合もありますので、お気軽にご相談ください。

剖検症例のCPC（臨床病理カンファレンス）は全例公開で開催しており、当院のホームページでご案内しておりますので、ぜひ、ご参加ください。

共同利用のご案内

臨床検査科

科長 福西 雅俊

臨床検査科では、超音波検査技師の確保や検査自体の施行が困難な医療機関が多いことを踏まえ、平成23（2010）年度より地域医療への貢献のために他医療機関よりご依頼のあった患者さんの超音波検査を受け入れております。

受諾可能な超音波検査領域としては、心エコー、腹部エコー以外にも、甲状腺を代表とする表在エコー、透析患者様のバスキュラーアクセス（シャント）を含めた全身の血管エコーとなっており、現在、年間平均50～60件の他医療機関からの依頼に応じた超音波検査を行っております。

超音波検査は技師の技量や経験が求められる分野ですが、特に当院の心エコーや腹部エコーの超音波検査技術は北海道内でも有数の施設として知られており、各方面で学術活動も積極的に参加しています。

また、検査結果につきましては、基本的に報告書と画像データを後日郵送となりますが、依頼元の医療機関の診療に合わせて、当日検査終了時に患者さんに検査結果を持参していただき、同日診療することも可能となっております。

ご興味ある先生方やご不明な点がございましたら地域医療福祉連携室までご連絡ください。



画像診断科

科長 常丸 武敏

画像診断科では、他医療機関様から年間約450件もの依頼検査を受け入れています。委託契約を結ばれますと、直接各検査室で予約を取って検査が受けられます。また、放射線科医師の読影も可能です。ご希望がございましたら、地域医療福祉連携室までお問い合わせください。



< CT > 320列CT
キヤノン
Aquilion ONE
令和4（2022）年2月更新

単純・造影・3DCTなど短時間撮影で行なえます。冠動脈CTではX線管球が1回転0.25秒（撮影範囲16cm）で撮影可能です。



< 一般撮影 > X線装置
島津
RAD Speed Pro
令和4（2022）年12月更新

長尺撮影・断層撮影（トモシンセシス）ができます。トモシンセシスは金属アーチファクトがX線CTと比較して少なく、解像特性が高い断層画像を得られます。



< MRI > 1.5T
富士フィルム
ECHELON Smart
平成29（2017）年11月更新

高画質の画像を提供しております。もう一台の3T-MRI(キヤノ:Vantage Titan)でも撮影しております。



a) 単純X線画像

b) トモシンセシス画像

c) X線CT画像



< RI > SPECT/CT
シーメンス
Symbia Intevo Bold
令和4（2022年）1月更新

骨シンチ・脳血流シンチ（認知症関連）・甲状腺シンチなどができます。骨シンチやガリウムシンチは、同一検査内でCTが撮影できるので、フュージョン画像が作成可能です。



< 骨密度測定 > DEXA
GE
PRODIGY Fuga
令和元（2019）年12月更新

腰椎・大腿骨・前腕及び全身測定を行えます。一度行くとその後の追跡で継続してデータを表示できます。

「共同利用」につきましては地域医療福祉連携室までお気軽にご相談ください。

地域医療福祉連携室

室長 堀内 夏紀

令和5（2023）年4月より、これまでの地域医療連携室、医療福祉相談室、患者支援センターの3部門を統合し、保健師1名、看護師7名、医療ソーシャルワーカー7名、事務員1名、補助者1名の体制で地域医療福祉連携室として新たにスタートいたしました。

地域医療福祉連携室では、紹介元および紹介先との診療・検査予約、情報管理のほか、地域とのきめ細やかな連携、入院中に日常生活援助が増えたり、在宅で医療行為を必要とする患者さんの退院前後の訪問など、退院後も患者さんとご家族が安心して療養生活を送ることができるための支援にも力を入れております。

また、さまざまな困りごとのご相談、がん相談支援センターの開設、がん患者サロン（えぞりすカフェ）の開催により、病気と共に生活する方々のケアを行っております。

当院の「十勝・帯広に必要な医療機関であり続ける」という理念に基づき、十勝にお住まいの皆さまの医療と暮らしを支えられるように医療機関をはじめとした地域との顔の見える連携を心がけてまいります。



地域医療福祉連携室のメンバー。前列左から2人目が室長の堀内。地域の先生や関係の皆さまからのご紹介・ご相談をお待ちしております。

診療科目 受付時間一覧表

■午前受付 8:30~11:00 □予約、予約変更のお問い合わせ 14:00~
 ■午後受付 13:00~15:00 (脳神経外科のみ 月~木 12:00~13:00)

※第2、第4土曜日は休診です

		月	火	水	木	金	土
総合診療科	午前	●	●	●	●	●	▲
	午後	休診					
消化器科	午前	●	●	●	●	●	●
	午後	休診					
循環器科	午前	●	●	●	●	●	●
	午後	休診					
呼吸器科	午前	予約	予約	予約	予約	予約	休診
	午後	休診					
小児科	午前	●	●	●	●	●	●
	午後	● 特診	● 特殊 診療	● 特殊 診療	● ● 特診	● ● 特殊 診療	
外科	午前	●	●	●	●	●	● ※
	午後	乳腺外来	乳腺外来	乳腺予約	乳腺外来	乳腺外来	
整形外科	午前	●	●	●	●	●	●
	午後	スポーツ予約	スポーツ予約	スポーツ予約	スポーツ予約		
泌尿器科	午前	●	●	●	●	●	●
	午後	休診	予約	休診	休診	予約	
産婦人科	午前	●	●	●	●	●	予約 ※
	午後	●	休診	予約	●	休診	
脳神経外科	午前	●	●	●	●	●	休診
	午後	休診					
耳鼻咽喉科	午前	●	●	休診	●	●	●
	午後	●	休診	休診	休診	休診	
眼科	午前	予約	予約	予約	予約	予約	予約
	午後	予約	休診	予約	予約	予約	
麻酔科	午前	●	● 疼痛・緩和	●	●	● 疼痛・緩和	● 疼痛・緩和
	午後	休診					

■内科

▲総合診療科～紹介のみの診療となります。

●循環器科

- ・ペースメーカー外来～第2・第3月曜 午後1:30～(月2回)
- ・不整脈出張外来～金曜午前(月1回)不定期

●呼吸器科～完全予約制

- ※紹介状お持ちでも、予約をされていない方は当日受診はできません。必ず事前に「地域連携窓口」へご連絡ください。
- ※但し、二次健診の方は予約なしでも診療可能です。

●2次健診～土曜日は受診できません。

■小児科

<午後の特設診療内容>

- 月曜日午後～神経外来(再来のみ一般可)
- 火曜日午後～予防接種(受付1:00～3:00) 心エコー外来(予約のみ) 喘息外来(予約のみ)
- 水曜日午後～乳児健診
- 木曜日午後～心臓外来(予約のみ)
- 金曜日午後～腎疾患外来(予約のみ) 血液外来(予約のみ) 内分泌疾患外来(予約のみ) アレルギー外来(再来のみ一般可)

■外科

- 乳腺外来 月～金曜日 午前 8:30～11:00 月・火・木・金曜日 午後13:00～14:00 水曜日午後13:00～14:00(完全予約制)
- ※乳がん検診～月～金(土曜日以外)

■整形外科

- スポーツ外来(完全予約制) 月～木曜午後15時開始

■産婦人科

- 産科～水曜午後は産後健診のみ
- ※土曜は妊娠を主訴とする初診の方のみ可
- 婦人科～土曜は不妊症検査治療、がん検診の予約のみ

■脳神経外科

- パーキンソン・ふるえ外来は休診中です
- 川上医師の診療は休診中です

■耳鼻咽喉科

- 2次健診～土曜日は受診できません
- 補聴器外来～第2、4水曜午後のみ
- 第3金曜は10:30までの受付

■眼科


- 完全予約制(新患・再来を問わず、事前に予約が必要です)

■麻酔科

- 疼痛・緩和外来は火・金・土曜日午前中のみ

※●は診療しております (緊急対応のため、変更になることもありますので、ご了承ください)



0155-22-6600

〒080-0805 帯広市東5条南9丁目2番地

地域医療福祉連携室

FAX: 0155-22-6620

chiren@obihiro-kyokai-hsp.jp

地域医療連携ニュース With

令和5（2023）年10月